

ボツワナ共和国月報(2025年5月)

主な出来事

【内政】

- 民主的改革のためのアンブレラ(UDC)の活動家集団、中国大使を表敬
- 各党の党大会
- 公開会計委員会の開催
- 違法移民収容センターの亡命希望者、難民キャンプへ移送
- ボツワナ国民は大統領の直接選挙制を希望
- ハオラテ副大統領、閣僚及び政府高官の外遊に理解を求める
- UDC戦略チーム、中国でベンチマークを実施

【外政】

- マエレ高等教育大臣、ガーナ訪問
- ブルガリア元大統領、ボコ大統領を表敬
- ナミビア大統領、ボコ大統領を表敬
- マシシ前大統領、トーゴ訪問
- ブタレ国際関係大臣、第3回アフリカ連合-欧州連合(AU-EU)閣僚会合に出席
- ボコ大統領、エストニアを訪問

【SADC関連】

- SAMIDRC部隊、撤収開始
- SADC、SAMIDRC部隊の撤退支援不足を否定
- SADC、加盟国首脳による越境保全地域(TFCA)サミットを開催
- SADCとアフリカ開発銀行(AfDB)、2025年年次総会で戦略的連携を強化

【経済】

- IMFによる経済見通し—2025年はマイナス0.4%に—
- インフレ率(2025年4月)—2.3%—
- 国際商品貿易統計(2025年3月)—赤字が継続—
- EUとボツワナ、デジタルトランスフォーメーション事業を開始
- アフリカ大陸自由貿易圏(AfCFTA)デジタル通商フォーラム2025の開催
- ボコ大統領、デブスワナの人員削減計画を公表
- ボンノ国家住宅計画始動

【保健】

- ボツワナがHIVの母子感染根絶への道筋におけるゴールド・ティアを達成

【大使館関連行事】

- チャイルド・ヘルプライン・コールセンター建設計画起工式

【内政】

○ 民主的改革のためのアンブレラ(UDC)の活動家集団、中国大使を表敬

8日、UDCの活動家集団「マディベラトーポ」が、ファン中国大使を表敬し、両者は率直で活発かつ温かく実りある意見交換を行った。

○ 各党の党大会

9日～11日、前与党ボツワナ民主党(BDP)は党首を含めた中央委員会のメンバーを選出する党大会を実施し、党首選にはツォフワネ前副大統領を含む4人が立候補していたが、バロピ元雇用・労働生産性・技能開発大臣が圧倒的多数票を獲得し、選出された。

UDCに所属する革新連合(AP)は7月22日、ボツワナ国民戦線(BNF)は7月25日にそれぞれ党大会で党役員を選出予定。

○ 公開会計委員会の開催

12日、国民議会の公開会計委員会が6月3日までの日程で始まり、2021年度の決算を審議する。同委員会は全与野党の国民議会議員により構成され、議長は野党第一党のボツワナ議会党(BCP)のルーカス議員が務める。23日からは国際関係省の審議が始まり、ラモディモオシ国際関係省次官が同省の役割や直近の活動の概略について説明した。また、同省が適性評価を怠って購入したとされるニューヨークや中国の建物についても質疑応答がなされた。

○ 違法移民収容センターの亡命希望者、難民キャンプへ移送

政府は、現在フランシスタウンの違法移民収容センターに拘留されている少なくとも469人の亡命希望者を、ドウクウィ難民キャンプへまもなく移送する予定である。これらの亡命希望者は、紛争が続くコンゴ民主共和国(DRC)東部、ソマリア、ウガンダ、ルワンダ、エチオピア、ナミビア及びジンバブエのほか比較的安定しているアフリカ大湖地域の国々からの流入者である。

○ ボツワナ国民は大統領の直接選挙制を希望

アフロバロメーターの最新の調査によると、ボツワナ国民の60%が大統領を直接選挙で選ぶことができるように選挙制度を変更するよう希望している。

○ ハオラテ副大統領、閣僚及び政府高官の外遊に理解を求める

22日、ハオラテ副大統領はビジネスボツワナ通商フェアに大統領代行として出席した。経済状況の悪い中での閣僚及び政府高官が頻繁に外遊していることへの国民からの批判や懸念がソーシャルメディア上で高まっていることに対し、同副大統領は、政府は

慎重に外遊の必要性を判断しており、各使節団は重要な価値を国にもたらしていること、相手国や実施団体によって外遊の必要経費が支出されているものもあることを説明し、国民に理解を求めた。

○UDC戦略チーム、中国でベンチマークを実施

UDC戦略チームのモルツィ氏が4人のメンバーと共に、中国を訪問し、ベンチマークを実施した。同氏はこの訪問が中国共産党によって意図、調整されたものとの憶測を否定し、完全に党内の行事であり、党の戦略策定を促進するためのものとした。

【外政】

○マエレ高等教育大臣、ガーナ訪問

11日、マエレ高等教育大臣は、TVET(技術職業教育訓練)改革の推進を目的としてガーナを公式訪問した。ガーナの職業教育制度を知るため、教育関係者や地域代表と幅広く交流し、アフリカ有数のTVET機関ビリワ工科大学を視察した。

○ブルガリア元大統領、ボコ大統領を表敬

13日、ストヤノフ元ブルガリア大統領はボコ大統領を表敬訪問した。ボコ大統領は1970年代から続く両国の外交関係に触れ、これまでの具体的な成果は少ないが、今後は貿易と投資の分野で協力を再考し、強化すべきだと述べた。

○ナミビア大統領、ボコ大統領を表敬

15日、ンダイトワ・ナミビア大統領はボコ大統領を表敬訪問し、首脳会談を実施した。両者は、経済協力やインフラ、エネルギー分野での連携強化について話し合い、ンダイトワ大統領は、ナミビアで新たに発見された石油資源をボツワナと共同活用する意向を示した。

○マシシ前大統領、トーゴ訪問

17日から18日にかけて、マシシ前大統領は、東アフリカ共同体(EAC)と南部アフリカ開発共同体(SADC)の指名ファシリテーターパネル会議に出席するため、トーゴのロメを訪問した。この訪問は、SADC議長であるムナンガグワ・ジンバブエ大統領がボコ大統領と協議の上で指名したことによるもの。この会議では、アフリカ連合の各地域ファシリテーターがコンゴ民主共和国東部の紛争和平調停実現を目指して議論した。

○ブタレ国際関係大臣、第3回アフリカ連合-欧州連合(AU-EU)閣僚会合に出席

21日、ブタレ国際関係大臣はブリュッセルで開催された第3回アフリカ連合-欧州連合(AU-EU)閣僚会合に出席。同大臣は、移民問題への対応として「移民は逃避ではな

く選択であるべき」と述べ、人間中心の開発戦略の必要性を強調した。また、ボツワナの住宅政策やデジタル化推進策を紹介し、グローバル・ゲートウェイ枠組みの下でのEUとの連携強化に向けた準備が整っていることを強調した。

○ ボコ大統領、エストニアを訪問

19日から22日にかけて、ボコ大統領はエストニアを訪問し、カリス・エストニア大統領と首脳会談を実施した。両者は、両国のデジタル変革や教育、貿易・投資などの協力強化について協議した。この訪問は2024年3月のカリス大統領のボツワナ訪問に続くもの。今回の訪問中、エストニアの先進的なデジタル社会から学びつつ、両国関係のさらなる発展を目指す貿易促進を目的としたビジネスフォーラムも開催された。

【SADC関連】

○ SAMIDRC部隊、撤収開始

1日、南部アフリカ開発共同体(SADC)は、コンゴ民主共和国(DRC)東部に展開していたSAMIDRC部隊の撤収を4月29日より開始したことを報道発表した。撤収計画は陸路でルワンダを経由し、参加国(南ア、マラウイ、タンザニア)へ帰還する。この撤収は、2025年3月のSADC首脳特別会議の決定に基づくもの。部隊は2023年12月から派遣されていた。

○ SADC、SAMIDRC部隊の撤退支援不足を否定

20日、SADCは、DRC東部ゴマから撤退を開始している南アフリカ部隊への輸送機材等が不十分だとするNews24(南アメディア)による報道を強く否定し、すべての撤退計画が関係者の合意のもと適切に進められていると強調した。

○ SADC、加盟国首脳による越境保全地域(TFCA)サミットを開催

23日、SADCは、ハラレ(ジンバブエ)にて、TFCA設立25周年を記念し、サミットを開催した。同サミットにはSADC加盟国の首脳やSADC事務局長らが出席し、主に自然資源の国境管理における成功と課題を議論し、地域社会、民間セクター、国際パートナーとの強力な連携による持続可能な開発へのコミットメントを再確認した。ボツワナからはモロチ環境観光大臣が出席した。

○ SADCとアフリカ開発銀行(AfDB)、2025年年次総会で戦略的連携を強化

26日から30日にかけて、AfDB年次総会がアビジャン(コートジボワール)で開催され、これに合わせ、SADCはAfDBとの連携強化に向けた戦略的協議を行った。27日にはマホシSADC事務局長がンワブフォAfDB地域開発・統合・ビジネス推進担当副総裁と会談し、SADC地域指標戦略開発計画(RISDP)2020-2030に基づく約2,260万米ドル規

模の4プロジェクト(漁業ガバナンス、貿易の円滑化、マクロ経済の収束、地域金融統合)について、意見交換した。

【経済】

○IMFによる経済見通しー2025年はマイナス0.4%にー

IMFは、世界経済見通しを更新し、2025年のボツワナの経済見通しをマイナス成長(マイナス0.4%)に、年間インフレ率を4.5%に修正した。

○インフレ率(2025年4月)ー2.3%ー

4月の年間インフレ率(前年同月比)は2.3%となり、前月(2.8%)から0.5ポイント下降した。分野別寄与度は、上位から食品・非アルコール飲料(0.9%)、雑貨・サービス(0.8%)

○国際商品貿易統計(2025年3月)ー赤字が継続ー

3月のボツワナの輸入額は74.829億プラで、2月の68.911億プラ(改定値)から8.6%増加した。品目別割合は、燃料:18.1%、食品・飲料・タバコ:16.4%、機械・電気機器:15.4%、ダイヤモンド:13.4%、化学・ゴム製品:10.8%、となっている。輸入元は、南アが最も多く59.1%、続いてナミビアが14.9%、中国が5.9%、モザンビークが4.4%、インドが2.1%となっている。

また同月のボツワナの輸出額は55.298億プラで、2月の54.503億プラ(改定値)から1.5%増加した。輸出総額のうちダイヤモンドが70.1%、銅が17.4%、機械・電気機器が4.5%を占めている。輸出先は、UAEが23.6%、ベルギーが23.5%、インドが17.3%、南アが9.7%、豪州が9.0%、中国が7.9%となっている。

結果として同月の貿易収支は19.531億プラの赤字となり、2023年9月以降、19カ月連続の貿易赤字となった。

○EUとボツワナ、デジタルトランスフォーメーション事業を開始

6日、EUによるボツワナのDX計画支援が開始された。モワサ大統領府担当大臣は、これはボツワナとEUがビジョンを共有することを示すと共に、このビジョンが包括的でつながりのある知識主導型社会も構築すると述べた。EUは総額67.7百万プラの投資と、フランスからの23.1万プラの追加出資により、この取り組みを支援する。

本プロジェクトはEUのグローバル・ゲートウェイ戦略に基づいている。同戦略はデジタル、エネルギー、輸送の各分野におけるスマートでクリーンかつ安全な接続を促進し、世界中の医療、教育、研究システムを強化することを目的としており、ボツワナの国家デジタル変革戦略「SmartBots」とも合致している。

○ アフリカ大陸自由貿易圏(AfCFTA)デジタル通商フォーラム2025の開催

8日から10日にかけて、ルサカ(ザンビア)でAfCFTAデジタル通商フォーラム2025が開催され、デジタル通商に係る議定書の運用に焦点を当てたハイレベル対話等が行われ、ボコ大統領が首脳級の本会議に出席した。フォーラム最終日に、デジタル貿易に関する議定書が採択された。

本フォーラムの成果は、AfCFTA加盟各国内及びアフリカ大陸のデジタル統合の次期フェーズに反映される。AfCFTA事務局は、包括的で競争力のある単一デジタル市場を実現するために必要な政策、法律、制度インフラの構築において、加盟国を支援する方針。

○ ボコ大統領、デブスワナの人員削減計画を公表

16日、ボコ大統領は、国営ダイヤモンド鉱山会社であるデブスワナ(ボツワナ政府とデビアス社の50/50合弁会社)が、進行中のダイヤモンド市場の低迷に対応するため、1,000人を超える従業員の人員削減計画を公表した。

○ ボンノ国家住宅計画始動

19日、水資源・住宅省は、ボンノ国家住宅計画に関する関係者フォーラムを開催した。ラモハピ水資源・住宅大臣は、今後3年間で10万戸の住宅ユニットを提供するという目標を発表した。このうち、6万1千戸が2025年6月にパラペで着工され、建設は全国の各地区で行われる予定。22日には、プログラムの応募方法や住宅ローンが公表された。

【保健】

○ ボツワナがHIVの母子感染根絶への道筋におけるゴールド・ティアを達成

20日、第78回世界保健総会の本会議で、ボツワナはHIVの母子感染根絶への道筋におけるゴールド・ティアを達成したとして表彰された。小児の新規HIV感染者の年間症例数を10万人あたり500人未満から250人未満に減らすという厳しい目標を達成し、HIVに感染している妊婦の妊産婦ケアへの対応や、HIV検査、治療サービスの提供率を90%から95%に引き上げ、ゴールド・ティアの地位を獲得した最初の国となった。

【大使館関連行事】

○ チャイルド・ヘルプライン・コールセンター建設計画起工式

21日、ハボローネ市で、進藤大使出席の下、令和6年度対ボツワナ草の根・人間の安全保障無償資金協力「チャイルド・ヘルプライン・コールセンター建設計画」の起工式が行われた。本計画は、チャイルドライン・ボツワナ・トラスト・ファンドの敷地内に、チャイルド・ヘルプライン用のコールセンター棟を建設し、備品を整備することで、ボツワナ全土からの児童相談緊急電話対応の体制を強化するもの。

(了)